

# 平成21年度鎌倉市外部評価結果報告書(概要版)

## 1. 鎌倉市外部評価について



専門評価委員3名と市民評価委員3名で構成する鎌倉市民評価委員では、専門性・客観性を担保し、行政外部の視点で市の施策や事務事業を評価しています。

## 2. 平成21年度外部評価について

### 施策進行外部評価 (全分野評価)



第3次鎌倉市総合計画第2期基本計画の政策・施策体系全30分野の中から「計画の前提」を除き、評価可能な全27分野について評価を行いました。

### 施策進行外部評価 (スポット評価)



全27分野の中から「学校教育」について評価を行いました。

### 事務事業外部評価



スポット評価の対象である「学校教育」の分野に属する30事務事業について評価を行いました。

## 3. 評価結果について

### 施策進行外部評価(全分野評価)(鎌倉市外部評価結果報告書 5ページ～)

○行政評価は市民へのアカウンティビリティ、施策・事業の見直し等の視点から欠かせない作業である。



○行政評価にはいろいろな見方があるが、基本的に流れているのは、評価の結果を踏まえて次に向けてよりよい方向をめざしていくことにある。

●内部評価には、何をやりましたとしか書かれておらず、その結果どうなったのか、どう効果が現れたのかという考察や診断がなされていない。各分野ではそれなりに施策を展開しているにもかかわらず、その情報がきちんと伝わっていないことを示している。

●評価を通じて自ら担当する事業をより有効にしていくための手段でもあることを肝に銘じ、評価結果が次の計画に反映されることを念頭に置き、今後も全庁を挙げて評価に対して積極的に取り組んでいっていただきたい。

### 施策進行外部評価(スポット評価)(鎌倉市外部評価結果報告書 8ページ～)

○市民委員の3名中2名がこの分野の進捗状況について「変わっていない」と評価し、1名が「良い方向に向かっている」と評価しており、大きな進捗は感じられないが努力について評価できると考える。



●施策進行外部評価を行う中で、原局ヒアリングを教育委員会に絞りに絞って、初めて詳細な鎌倉市の教育が理解できた。ヒアリングをしないと具体的な内容が見えてこないということは市民も具体的な内容を理解できず利用できないということに繋がるのではないだろうか。今後、どのような方法で施策評価を進めるのかといった評価の在り方の検討も課題と考える。

○児童が安心して勉学できる町、健やかに成長できる教育環境整備という点で非常に努力している点やかまから教育プランを立案してきめの細やかな独自性のある教育を展開しようと努力している点は評価でき、今後も直実な推進を願う。

●「鎌倉市としての子ども像の構築とそのビジョンが伴った教育のプランの構築」が課題である。

### 事務事業外部評価(鎌倉市外部評価結果報告書 11ページ～)

●データの記述が随所にみられるものの、それがどのような結果をもたらしたか、またそれが何を意味するのか不明な箇所も多数みられる。



○実際の評価作業を通じて、改めて学校教育および子どもに係わる様々な事業が、緊急かつ重要であり、鎌倉市が力を入れて熱心に取り組んでいることが確認できた。

●重複や効果が明らかでない事業も含まれている可能性もあることが指摘され、今後財政的な面からも選択と集中を図り、より効果的な施策を行っていくことが望ましい。

○鎌倉市の将来の学校教育を構築していく上での指針でもある「かまから教育プラン」に対する基本理念や実効性がどこまで担保できているのかが外部事務事業評価の重要なポイントである。